

安曇野日和



連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

前回の院長室だよりでは小倉病院の業績が昨年と比較して改善していると書きました。例年秋になると体調を崩される患者さんが続出して予期せぬ退院が増える時期ではありますが、本年は地域の医療機関からの依頼が多く何とか持ちこたえています。

しかしここ数年病床稼働率90%程度で経過しているうちに大きな落とし穴ができていました。患者さんだけでなく小倉病院で働く職員も減っていたのです。私が院長室だよりを書くようになった10年ほど前は約135名の仲間がいました。現在は128名ですから、必然的に職員一人一人にかかる負担が大きくなっています。ひいては提供するサービスの低下や職員の健康への影響も気にしなくてはなりません。城西病院の外来ではうつ病などメンタル不調で受診する患者さんが途切れることがありませんが、事情を伺うと職場の人員不足が大きく影響しているようです。

実感するのはどの業種も若い働き手が減っていて、高齢化社会がいよいよ就業に直結する事態となってきました。もちろん定年は徐々に後退して70歳でも働くことが当たり前の世の中となりつつありますが、30～50代の方々と同じように働くことは難しいと思います。

日本全体として少しずつダウンサイジングをしていくのか、あるいはAIやロボットが不足する労働力を補うのか、今の時点で先行きは不透明です。必要な人材は確保することはもちろんですが、それでも管理者として大きな決断をしなくてはならない日が遠からずやってくるのではないかと覚悟しています。

表紙写真 写真タイトル : 「野沢菜畑」

撮影者：樋口 孝

信州では、お馴染みの野沢菜漬用の広大な野沢菜畑を撮影しました。これから収穫が始まります。野沢菜の根っ子は、使い物にならないので切って土に返されるそうです。後方には、リンゴ畑、安曇野富士の有明山が映っています。

夏の代名詞・スイカを食べました

8月は各病棟でスイカをメインとしたレクリエーションが行われました。

2-3病棟では本物のスイカを使ったスイカ割りが行われ、周りの声掛けに従って力強く叩いていました。複数の患者さんが挑戦しましたがなかなか割れず苦戦してしました。



1-3病棟では甲子園シーズンにちなみ、ペットボトルでボールを打つゲームを行いました。得点板の上にボールが載るように打つのは難しそうでしたが、患者さんは上手にボールを打っていました。

2-2病棟では『〇×クイズ』と紙風船をスイカに見立てた『スイカ割り』を行いました。クイズでは患者さん一人一人に〇×のついたうちわが配られ、問題を聞きながら真剣な様子で答えていました。

スイカは波田産の甘くておいしいスイカが用意され、患者さん個々の食事形態に合わせて提供されました。患者さんからは「甘くておいしかった」「おかわりをして食べた」などの感想が聞かれました。



向日葵の花が咲きました

夏本番の中、向日葵が見事な花を咲かせました。病院東側の敷地には、療養生活の一環として開院当初からの重要な資源として活躍していた畑があります。患者さんの高齢化に伴って使用頻度が減ったこの畑を復活させようと看護部有志が取り組みを始めたのは前回お伝えしたところですが、その一環で向日葵の種を蒔いています。畑一杯に咲いた花は、病棟の窓から眺めることができ、患者さんからは、「きれいだね」とか、「ここの看護長さんが音頭とったんでしょ？」とか、



「すごいね」といった声が聞かれました。いずれの方も関心を持って眺めていました。また、「種は採るの？来年も蒔くの？」とか「炒って食べると美味しいんだよね」など、花を愛でるだけでなく、その先に関心を寄せる患者さんもありました。



秋祭りが開催されました

10月16日に秋祭りが体育館にて開催されました。

昨年までは感染症対策の為病棟単位での開催でしたが、今年は病院全体で行う形で屋台や職員によるステージ発表が行われました。

桑村院長による開会の挨拶の後、4つの病棟と作業療法部によるステージ発表が行われました。歌やダンスなどの部署も趣向を凝らした内容の発表がされ、マツケンサンバなど患者さんにも馴染みのある曲が流れると、音楽に合わせて手拍子をしたり口ずさんだりしながら楽しめる様子が見られました。ステージ発表の最後には桑村院長の歌が2曲披露され、患者さんは真剣な表情で聴いていました。

ステージ発表の後には屋台が行われました。今年は焼きそば、部長そば、わたあめ、かき氷、ゼリー・プリン、射的、ヨーヨー釣りの計7つの屋台が用意され、患者さんは好きな食べ物を選んで食べたり、射的などに挑戦して景品をもらったりと思い思いの時間を過ごされていました。終了後患者さんからは「歌が一番良かった」「みんな上手だったね」「射的で欲しかったものが貰えた」などの感想が聞かれました。

4年ぶりに病院全体で秋祭りを行いました。以前行っていた時の様子を知らない職員が多く、経験のある職員の記憶を頼りに準備を進めてきました。準備は大変なことも多かったと思いますが、当日患者さんが楽しんでいる様子を見ることが出来、無事に開催出来て良かったと思いました。



木村設業様よりプリンをいただきました

9月26日、当院の水道・浄化設備を担当している木村設業様のご厚意により、院内の患者さんにプリンが振舞われました。プリンは、病院のおやつ時間に患者さんのもとに届いています。カラメルとプリンの2層に生クリームが載せられた王道のおやつ、患者さんたちは笑顔で食べていました。



職場体験がありました

7月に、三郷中学校の生徒さんが職場体験にやってきました。コロナの影響でここ数年行われていみせんでしたが、久しぶりの受け入れでした。医療に関心を持つ生徒さんが、2日間院内の色々な部署を回り、仕事の説明と体験をしていきました。当院には診療局、看護局、事務局といった部門があり、様々な職種が協同して患者さんの健康と安寧を支えています。今回生徒さんたちが体験していったのは医師、看護、介護、薬剤、ケースワーク、作業療法、放射線、心理検査などごく一部、また、感染対策として患者さんとのふれあいには制限がある中ですが、将来に向けて良い体験ができたことを願っています。



病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 医療介護福祉の連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟200床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103

長野県安曇野市三郷小倉6086-2

TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団

ミサトピア小倉病院

城西医療財団HP www.shironishi.or.jp

編集後記

安曇野日和44号をお届けします。今号では、夏から秋にかけての院内での出来事をまとめています。コロナウイルスへの警戒はまだまだ続いているますが、病院全体で集まって行事が行われたり、職場体験を受け入れたり、少しずつですがかつての姿を取り戻しているようです。患者さんの面会や外出も、いつか制限なく行える日が来ることを願っています。余談ですが、病院のホームページがリニューアルされたので、ぜひご覧ください。